

2010年7月16日

第7回 きょうゆうサロン 参加者アンケート結果報告書

全学教育推進室会議

2010年7月8日（木）に、第7回きょうゆうサロンが開催された。参加者に対して、開催終了時にアンケート調査を実施した。その結果は以下の通りである。

I. 回答者の属性

回答者は、参加者41名（+事務局11名）のうち、24名であった。

回答者の属性は、

職種：教員21名、非常勤教員0名、職員2名、無回答1名、

性別：男性14名、女性8名、無回答2名

所属学部：社会福祉7名、子ども発達7名、健康科学1名、福祉経営2名、経済1名、

国際福祉開発2名、通信教育1名、無回答2名

であった。

II. 参加への経緯

本会の開催についてどのように知ったかについては、

ポスター1名、チラシ4名、教授会資料11名、知人2名、web0名、メール（ML含む）4名、その他4名、無回答2名

であった。

III. きょうゆうサロン参加の理由

きょうゆうサロン参加の理由（自由記述）については、無回答が7名であった。記述された回答を以下に示す。

- ・テーマや内容に興味・関心をもてた（3名）。
- ・学生教育にあたり、興味深いテーマであったこと。他学部教員との交流ができること。研究法を学べると思ったこと。
- ・学生委員である為、講義内容に関心がありました。
- ・学生達の事、どんな視点を他の教員がもっているのか広く知りたかった。
- ・今の学生の動向を非常によく捉えた調査で感心したから。
- ・学生支援についての意見を色々お聴きしたかった為。
- ・授業の問題を論じたかったから、生活・授業などもう少し特定のトピックにしばった議論を今後していってもよいと思う。
- ・学部・学生委員として、この学生像の報告は意味があると考えた。
- ・学生委員に勧められた。
- ・有益だと思ったから。
- ・湯原先生コーディネートのグループワークに興味があった。
- ・お誘いがあったことがきっかけです。
- ・可能な限り、全部出る。
- ・おもしろそうだから。

IV. きょうゆうサロンのプログラムについて

本会全体の評価を 14 項目でたずねた。その結果を以下に示す。

1. 今回のサロンは、全体的に満足のものだった

	人数	割合 (%)
4. そう思う	10	41.7%
3. どちらかというと思う	9	37.5%
2. どちらかというと思わない	4	16.7%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	1	4.2%
	24	

2. 事前に、このサロンの目的を理解していた

	人数	割合 (%)
4. そう思う	6	25.0%
3. どちらかというと思う	9	37.5%
2. どちらかというと思わない	6	25.0%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	3	12.5%
	24	

3. 今回のサロンの目的は分かりやすく説明されていた

	人数	割合 (%)
4. そう思う	11	45.8%
3. どちらかというと思う	7	29.2%
2. どちらかというと思わない	3	12.5%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	3	12.5%
	24	

4. 開催の日時、時間帯は適切であった

	人数	割合 (%)
4. そう思う	11	45.8%
3. どちらかというと思う	6	25.0%
2. どちらかというと思わない	3	12.5%
1. そう思わない	1	4.2%
0. 分からない(該当外)	3	12.5%
	24	

5. 事務局は手際よく運営していた

	人数	割合 (%)
4. そう思う	14	58.3%
3. どちらかというと思う	7	29.2%
2. どちらかというと思わない	1	4.2%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
	24	

6. 内容は、ちょうどよいレベルに設定されていた

	人数	割合 (%)
4. そう思う	13	54.2%
3. どちらかというと思う	5	20.8%
2. どちらかというと思わない	3	12.5%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	3	12.5%
	24	

7. 内容は、わかりやすい順序で進められた

	人数	割合 (%)
4. そう思う	8	33.3%
3. どちらかというと思う	9	37.5%
2. どちらかというと思わない	4	16.7%
1. そう思わない	1	4.2%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
	24	

8. 配布資料はわかりやすいものだった

	人数	割合 (%)
4. そう思う	9	37.5%
3. どちらかというと思う	12	50.0%
2. どちらかというと思わない	1	4.2%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
	24	

9. 話題提供者の説明はわかりやすいものだった

	人数	割合 (%)
4. そう思う	11	45.8%
3. どちらかというと思う	5	20.8%
2. どちらかというと思わない	1	4.2%
1. そう思わない	1	4.2%
0. 分からない(該当外)	6	25.0%
	24	

10. このサロンを通して、人的なつながりを作ることができた

	人数	割合(%)
4. そう思う	3	12.5%
3. どちらかというと思う	12	50.0%
2. どちらかというと思わない	6	25.0%
1. そう思わない	1	4.2%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
24		

11. このサロンを通して、自分に有益な情報や知識を得ることができた

	人数	割合(%)
4. そう思う	4	16.7%
3. どちらかというと思う	15	62.5%
2. どちらかというと思わない	3	12.5%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
24		

12. 他の参加者との意見交換や交流の手法として、ワールドカフェ（グループワーク）は有効であった

	人数	割合(%)
4. そう思う	10	41.7%
3. どちらかというと思う	7	29.2%
2. どちらかというと思わない	4	16.7%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	3	12.5%
24		

13. 今回の内容は、今後自身の取り組み（指導・支援など）をするうえで役に立ちそうだと

	人数	割合(%)
4. そう思う	8	33.3%
3. どちらかというと思う	10	41.7%
2. どちらかというと思わない	4	16.7%
1. そう思わない		0.0%
0. 分からない(該当外)	2	8.3%
24		

14. 13.でお答えの内容については、具体的にどのような点が役に立ちそうか、自由記述でたずねた結果、無回答は12名であった。記述された内容を以下に示す。

- ・視野が広がった。
- ・学生の見方が理解できた。
- ・学生理解の視点を確認できた。
- ・他学部での学生像について具体的なエピソードが得られ、共通課題を認識できた。

- ・どんな人に一番支援が必要かを、確認できた。
- ・学生の視点にたってどんな思いで大学にきているかを、見ていく必要がある。
- ・調査報告に対する受けとめ方の広がり把握することができた。
- ・考え方やとらえ方の整理・確認には役立ったが自身の具体的な取り組みまでは。
- ・お互いの意見交換はできたが、次へのステップは必ずしも明らかになったわけではない。
- ・自分だけでは気づかなかった意見を聞けたこと。(必ずしも C・D 層は AB を目指していないなど。)
- ・このように教員が考え続けることが、学生に伝わる。
- ・学生像・納得がいくものだった。

V. 今後、きょうゆうサロンで扱ってほしいテーマがあれば、ご提案ください。

19名が無回答であった。

- ・教授法。ゼミの進め方。
- ・障害を持つ方の対応をもっと深く進めた方がいいです。
- ・D層の支援方法のアイデア
- ・個別の学生対応を考える。(困った！どうしたら良い？対応が難しい・・・というような事を話し合える場。)
- ・特になし。

VI. その他、ご要望・ご感想などをご自由にお書きください。

17名が無回答であった。

- ・短時間でグループ移動や議論と目まぐるしかった。じっくり語り合う事が必要だと思う。
- ・もう少しじっくりと、討論できる時間があるとよいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・教授会の後は、きついです。
- ・しばらく大学の事務や教務の仕事から遠ざかっていたので、久しぶりに楽しい議論ができました。
- ・ありがとうございました。
- ・時間不足でした。せつかく優れた材料だからもっとリアルな現実に迫れるような時間が必要だ。
- ・特になし。

きょうゆうサロンのプログラムについては、全体的に概ね肯定的な回答が得られ、参加者の満足感が高かったことがうかがえる。今回初めて取り入れたワールドカフェも、その手法が「有効であった」と回答した教職員が24名中17名であり、教職員同士が議論・交流する場を設けることは有効的であることが示された。これまでのきょうゆうサロンでは話題提供と懇親会とを分けていたが、今後はグループワークを行いつつ懇親を深める形を基本にするとよいかもしれない。なお、ワールドカフェでの討議時間は40分ほど確保していたが、結果としては「時間が足りない」という声が多数聞かれた。要望・感想にあったとおり、今後はじっくり討論ができるよう、意見交換や討論をする時間を十分に確保することが必要であろう。

以上